

—優良事例—

江差町歴まち商店街協同組合(渡島)

(監事 室谷元男)

江差は北海道の南西部に位置し、江戸時代よりニシンやヒノキアスナロ材による北前船交易で栄えた港町です。その繁栄ぶりは「出船三千、入り船三千」「江差の五月は江戸にもない」と謳われています。

江差の町並みには寺社仏閣・商家や民家などの建物が遺されており、また、日本を代表する民謡の江差追分をはじめ、お祭りや郷土芸能などは、多くの先人が北前船に乗せて運んで来ました。言い換えれば江差の町は北前船がつくった町なのです。

しかし輸送が海から陸上の鉄道や車に代わり、海からニシンが姿を消して過疎の町になりました。そんな折昭和61年に江差の若者の発案で、淡路島から瀬戸内海を抜け50日をかけて日本海を北上する昭和の北前船の大回航がなされました。この北前船大回航が自分たちの足下の歴史に眼を向けて、歴史を生かした町づくりへのきっかけとなりました。

そして平成元年に北海道の戦略プロジェクト「歴史を生かす町づくり」のモデル地区の指定を受けました。私たちはこの事業に呼応して平成4年、任意組合の歴まち商店街組合を結成。その後平成8年に協同組合として法人化しました。

商店街と言えないような小規模の商店ばかり、北前の息づく歴史を生かし、住民や職人さんたちと一緒に町づくりや店づくりを進めることとしました。

そんな思いで始めたのが春と秋の「いにしえ夢開道」イベントです。春の5月は幕末に江差沖で沈んだ幕府の旗艦・開陽丸をテーマにした野外劇、江差幕末物語です。商店主が中心となり役場や北海道の出先である檜山支庁(現在は檜山振興局)の職員も多数参加しました。そして秋の10月には町民向参加による、歴史をテーマにした仮装大会。この二つを柱に伝統食の復活や木工や藁などの職人作品や昔の写真展などを展開して来ました。

商店街のエリアは延長約1km、商店が30軒ほどでその他、100軒以上の銀行や事業所、神社や民家などがあります。この中の一軒から一人の語

り部が出たら百人の語り部のマチになるのでは、そんな事を考えました。主役はそこに住む住人。

そして江差を訪ねて来る人たちとの交流を大切にしたいとの思いでした。

この間に、春から秋までのイベントもより江差らしくと少しずつ変化して来ました。

2月～3月には「北前のひな語り」を開催。全国から頂いた170組のおひな様をいにしえ街道を中心に町中に展示しています。今年で4回目のイベントですが、おひな様を寄贈してくれた方には江差での展示場所をお知らせして見に来ていただいたりしています。沢山のおひな様に囲まれてのコンサートやお茶会に加え、今年は「ひな前の金婚式」も企画。結婚50年のカップルを町民とおひな様とでお祝いました。

そして5月の連休に合わせて「花嫁行列と長持ち唄」のイベントも今年で5回目となりました。



108段の階段のあるお寺をスタートして神社までのおよそ700mを花嫁さんが人力車に乗って親族や友人など120名ほどが、風情あるいにしえ街道を練り歩きます。昨年から二組のカップルが参加、江差追分の名人が長持ち唄やお目出度い歌詞で江差追分を唄い、神社の境内では郷土芸能の餅つきや新郎新婦による餅まきも行われおおいに賑わいました。

また、8月には十年来交流を続けて来た津軽半島五所川原市からねぶた師を招いて製作した行灯を並べての「夕焼けコンサート」も行っています。

今年の2月には下北半島の佐井村で開催の漁村歌舞伎に江差追分や餅つき囃子の郷土芸能での交流も行ってきました。

この20年、北前船が運んだ沢山の宝物をもっとさがして、これを磨いて、そして次代や外の人たちをつないで行こうと思っています。